『畜産（肉用牛）』の現状

古くから『畜産』と深い関わりがある大崎町ですが、人口減少や後継者不足などで、農家戸数や牛の飼養頭数は年々減少しています。

平成22年に町内の肉用牛農家戸数は６０１戸ありましたが、令和２年には３０２戸と、約10年で半数が減少。それに伴い、総飼養頭数も減少傾向にあります。

新規就農した20歳の若手

このような状況の中、昨年9月、ある若者が新規就農の認定を受けました。

下持留で牛の畜産経営を始めた、枦山嵐太朗（らんたろう）さんです。

嵐太朗さんは、亡き祖父が営んでいた牛舎を引き継ぎ、20歳で畜産を始めました。

今回は、若き牛飼いとして、初めてのせり市に挑戦した枦山嵐太朗さんを特集します。